



No. 87

発行人 染野 貴寛
発行所・一般社団法人千葉県社会福祉士会
〒260-0026 千葉県千葉市中央区千葉港7-1
塚本千葉第5ビル3F
TEL043-238-2866
FAX043-238-2867
<http://www.cswchiba.com/>
E-mail: office@cswchiba.com
※ 点と線はメール配信でも読めます!

特集 社会福祉士ってかっこいい？



彼はピンチの時に必ず現れる。絶体絶命の窮地に追い込まれても、信じる力と必殺技で、まさかの大逆転。毎回奇跡を起こすことに、誰もが心を躍らせ、憧れる存在である。

それに比べて僕は特別な必殺技は持っていない。空を飛ぶことだってできないし、大岩を投げ飛ばす力もない。でも僕にも頼ってくれる仲間がいる。知恵がある。たくさんの人達を笑顔にする力を持っている。僕が困っていると、たくさんの仲間達が助けてくれる絆がある。

『ありがとう』って言葉が大好きです。だって、社会福祉士だから！！

《特集》「社会福祉士ってかっこいい？」

2 病院内での社会福祉士と看護師の関わり

介護現場で後見人社会福祉士とケアに携わって

リハビリ職が感じた社会福祉士への信頼感

経営者から見た愛すべき社会福祉士

社会福祉士の役割について思うこと

独立型といわれる社会福祉士の歩み

実習先の社会福祉士はアウトロー

7 TOPICS 教育機関との協働 / 社会福祉士のわ

9 地域集会 ～つながるネットワーク～

10 私のイチオシ

11 三団体研修報告 / ブレインストーミング

12 事務局便り

特集「社会福祉士ってかっくっくっく？」

今号の特集記事では、様々な立場の方から社会福祉士の役割・期待について語っていただきました。

病院内での社会福祉士と

看護師の関わり

島田台病院
看護師 藤原 正仁
ふじわら まさひと

私は一般病棟で働いている看護師です。まずはどのような患者さんなのかを把握するために情報収集するところからはじまりますが、この「患者を把握する」ことが大変だと思うところです。入院前の生活を知る為に、患者さんから話が聞ける場合はいいのですが、特別養護老人ホームなどの施設に入所されている方で、寝たきりで意思疎通が図れない患者さんも多くいます。そうした中で患者さんの家族や施設との間に立って対応してくださるMさんは看護師にとっても大変心強い存在です。看護師

も患者さんの家族や施設の方とお話しますが、家族の関係性、金銭面、退院後の生活など看護師には対応が難しい場面が多々あります。そういった時、私はすぐにMさんにお願います。押しつけてしまうこともあり申し訳なく思っていますが、それくらい頼りにしています。病状的に当院では対応困難な患者の転院手続きにおいても医師から依頼を受けたMさんが迅速に調整してくださるので、私たちは患者さんの看護に専念することができます。病院のSWは病院と患者・家族の関係だけでなく、さまざまな職種のスタッフの連携も担っており、なくてはならない存在だと思っています。

介護現場で後見人社会福祉士とケアに携わって

はるなケアサービス

代表 沖山 徳子
おきやま のりこ

数年前になります。初めて後見人がつく利用者のケアに携わることになりました。

成年後見人という言葉は知っていましたが、実際どういう経緯で後見になり、どんな関わりをしていくのかわからず、後見人Aさんには色々教えていただきました。

利用者は、認知症進行により、被害妄想、徘徊等が出ており、独居生活が難しくなっていました。

地域包括支援センター、ケアマネ、デイサービス、訪問介護、医師、後見人のAさんと、本人の在宅生活が維持できるように、まずは食の確保と衛生管理を目的に、サービスを開始しました。本人はサービスの意味を理解することが難しかったため、拒否される可能性もありましたが、スムーズに開始できました。

実際に生活を見てみると、護身用のためのボールや金槌、ゴルフのドライバー、包丁がテーブルやベッドの下に隠してありました。包丁は元料理人であった本人にとって大切なものだったので回収方

法について悩みましたが、後見人Aさんと相談し、お弁当屋さんを開きたいので貸してほしいと本人に頼み計十五本回収し、後見人Aさんが預かり金庫に保管されました。

お金は利用者へ渡すと、盗まれないように自分で隠しわからなくなるため少しずつ小分けにして渡す等柔軟に対応してもらいました。また、利用者が、交番にお金を盗られたと訴えたり、自宅に帰れなくなると保護されたりした時は状況説明に行ってくださるので、緊急時の体制もしっかりできており安心してサービスに入ることができました。

在宅生活の最後の頃、施設入所も検討し、ショート利用を試したりしましたが、どの時点で在宅から施設入所の方向に進めるかの判断は後見人Aさんにとっても難しかったと思います。

日々訪問するヘルパーの私としては、利用者から結婚を申し込まれ、結婚しているとお断りすると、三日ほど目を合わせてくれなくな

る等、毎回、今日はどんな感じかとドキドキしながら訪問していましたが、後見人Aさんは、いつでも相談・報告でき、悩みを一緒に解決の方向へ敏速に進めてくれて本当にありがたい存在でした。

リハビリ職が感じた

社会福祉士への信頼感

島田台病院
リハビリテーション科
作業療法士 岡本 暁叔
おかもと あきよし



Mさんとは病院のソーシャルワーカーと作業療法士(リハビリ職)という関係で、カンファレンスや個別の話し合いなど、普段から連絡を取り合うことが多い。リハビリを行い、今後の方向性を決めるために不可欠なのはMさんとの連携である。

ある脳梗塞の男性のケースでは、リハビリを行い、杖で歩行自立、ADLも自立したが、元々単身で独居生活をするには身体的・経済的にリスクが伴う状態であった。兄弟は親身だが遠方在住で自分の家庭もあり、一緒に暮らすことは困難であった。

そこで今後の方向性、受け入れ先を考えて、動いてくれたのはMさんであった。本人、家族とじっくり話し合いを行い、比較的费用の安い養護老人ホーム入居を市役所に相談をかけたもなかった。実際に数か所を本人と一緒に見学にいったら、無事に納得して退院の運びとなった。

本人、家族とも「Mさんに良くしてもらった」「大変お世話になった」と感謝していた。Mさんがいたから本人にとってより良い選択が出来たのではないかと印象に強く残っている。

Mさんには本人・家族・他施設との連絡などこちらからお願いをすることも多いが、それに対する対応が素早くて確で、フットワー

クの軽さにいつも驚かされる。また、本人・家族を主体に進めていくこと、全体を見て幅広い視野で捉えることの大切さを教えてもらっている。「必要なことは即行動」「ケース主体で考える」という一つ一つの出来事の積み重ねが、私を含め周囲の人からMさんへの絶対的な信頼感に繋がっているように思う。

経営者から見た

愛すべき社会福祉士

株式会社なな色
代表取締役 西田 恭子
にしだ きょうこ



私は、人が笑顔で自分らしく過ごしていただけのようなお手伝いをしてたくて、会社を設立しました。現在は、介護保険部門と健康増進

部門を2箇所の事業所で展開しています。介護保険部門では、通所介護を2箇所と訪問リハビリステーションを、健康増進部門では自費の健康教室や個人の体のコンディショニングを実施しています。事業を展開する上で大切にしていることは、チームワークです。特に通所介護に関しては、スタッフに専門性を発揮したサービスの提供を心掛けるよう話しています。

当社には二名の相談員がおりますが、二名とも「社会福祉士」です。相談員は社会福祉士以外でもなることはできません。ですが、私は社会福祉士にこだわりました。なぜか。単純です。最も適した専門職だと思うからです。相談員の役割は『内外との調整』です。利用者のこと、業務のこと、ケアマネジャーさんのことなど、全てを見渡した上でコーディネートする必要があります。それをきちんと実践できるのは「社会福祉士」だと思います。開設して数年経ちますが、その思いは間違っていないかったと感じています。特に内外の

情報交換等において強く感じます。カンファレンスの企画実施やケアマネジャーさんとの円滑な情報交換がタイムリーに行われているのは会社にとって非常に有益です。

小さな会社ですので、残念ながら、相談員以外の仕事も多くあります。それらも他専門職のことを知る時間となったり、利用者さんに接する時間と考え、有効に活用していています。勿論資格が仕事をしているのではありません。人間味がある二人だからこそ良い仕事ができているのだと思います。

しかし、これで十分だというわけでもありません。コーディネイトをしたり、相手にとって有益な情報を提供したりするためには、業務のことだけでなく、色々な意味で勉強を重ね、人として更に信頼される相談員になってもらいたいと願っています。また、当社は健康増進事業も行っています。今後は地域の方々への情報発信や医療・福祉相談も展開する予定です。その時は持っている知識やスキルを活かして戦力になってほしいと

密かに考えています。

最後に、私見ですが、社会福祉士の本来の力を発揮できる医療・介護の現場は少ないのが現状ではないでしょうか。ベッドコントロールや契約などの事務手続きに追われ、相談業務等の時間が削られるなどといった話を耳にします。社会福祉士の皆さまには是非ともその知識を駆使し、コーディネイト力を発揮して、質の良いサービス提供にお力添えをしていただきたいと切に願います。

『社会福祉士の役割について思うこと』

「今、交流のある社会福祉士職を通して感じたこと」

柏市風早北部地区社会福祉協議会
会長 小林 充



私は、風早北部地区社協で地域福祉等に関するボランティア活動を行うメンバーの一員です。本地区協は、千葉県北西部の手賀沼の南側、最近では「道の駅しょうなん」の新鮮野菜販売等で人気の、旧沼南町の緑豊かな一角にあり、古き良き生活環境も残るほか、大規模住宅街が近年整備されたことなどから、高齢化率も比較的低い地区となっています。

地区社協とボランティア

この地区社協での活動とは、市町村社協単位では賄いきれない、もう少し細分化した、一つの中学校区程度の町会・自治会エリアを活動範囲として設置され、その関係者の全てが無償ボランティアにより構成され地域福祉活動を展開する組織であり、よくいえば人的経費は一切かかりませんが、その活動内容とは「所詮はボランティアの範囲」であるとも云えます。これは、悪口でも逃げを云うものでもありませんが、要は、自らの活動に窮した際には、プロではな

いからという逃げ道も存在するという点でもあります。

そのような中で、日々の主たる活動拠点や事務局の運営・助言などについては、柏市社協の職員による支援が受けられています。

ここ数年は、社会福祉士の資格を有する職員からの支援を受けていますが、その内容は完璧といえるものとなっております。

しかも現在の担当職員は卒業後間もない、若くてチャームアップな方ですが、私たち地区社協関係者の集まりの中に飛び込み、私たちにとっては何の関心もない、自らの資格等をひけらかすことなく、常に笑顔絶やさず物おじもせず、しかも必要な事柄については欠かさずに伝える能力には、感心せざるを得ないところなのです。

社会福祉士の「役割と使い道」

私たちの活動を支えている若い社会福祉士の、その個人が有する資質はむろんのこと、どうやら、所属の上司（センター長）の指導力のもとに、所属職員が一枚岩と

なり、私たちボランティア集団に
対しては、自らの専門職性等は微
塵も見せず、ボランティアの果た
すべく役割を100%出し切って活動
させてくれる環境作りに取り組ん
でいる。そしてどう攻めれば必ず
勝ち、喜んで軍門に下るかを承知
して関わっている。そんな、指導
力に長けている上司の存在が見え
隠れしてなりません。

近年は、地域内でさまざまな支
援等を必要とする方々に対して、
地域内の関係機関の専門職や各種
ボランティア関係者等が連携して、
地域内の課題等に取り組んでいく
仕組み作りが展開されていますが、
どうやら、そのような中において
は、厚労省管内の専門職の中でも
専門的過ぎず、しかも守備範囲が
広く、全体をくまなく見回すこと
ができなければ務まらないという
社会福祉士職が大いに活躍できる
役割があるのではないかと思えて
ならない今日この頃です。

独立型といわれる

社会福祉士の歩み

服部社会福祉士事務所
はっとり
服部
あきら
明

私は、永年の被用者生活とは異
なる生き方もしてみたいとの思い
から、社会福祉士登録完了後直ち
に、税務署に個人事業開業届（社
会福祉士業）を提出しました。

その当時を思い出してみると、
独立開業の意義を、「高い専門性と
自律性を持って、地域を基盤とし
た相談援助活動を展開する」と言
葉の意味も分からないまま口走っ
ていました。

現在では、「様々な人たちとの繋
がりの中で、自分の住んでいる地
域の福祉に、私なりに貢献できれ
ばいいな。いつかは、自分に還っ
てくる。」あたりが、座り心地のい
い言葉のように思っています。

開業と同時に、社会福祉士会に
入会。研修会や委員会活動などの
場で、人間の魅力も活動領域も多
士済々の独立型社会福祉士諸先輩

方との出会いがあり、先輩方の活
動をモデルにしながら、私なりの
社会福祉士活動が始まっていきま
した。

地域の繋がりが広がるにつれて、
地域の成年後見の勉強会や地域集
会にお誘いいただいたり、成年後
見を法人受任する団体に所属させ
ていただき後見人活動の第一歩を
始めたり、専門学校講師の仕事
をご紹介いただくようになりました。

また、地元社協の日常生活自
立支援事業に支援員として参加し、
地域福祉を支える市民ボランティ
アの輪の中にも入れていただきま
した。その一方で、地域の精神保
健福祉の勉強会にもお誘いいただ
き、参加を重ねるうちに高齢者や
障害者の区別なく地域福祉にもつ
と幅広く貢献したいとの思いが募
り、今年一月の精神保健福祉士試
験挑戦を決意した次第です。

さて、「点と線 第八七号」が発
行されるころ、服部社会福祉士事
務所は一体どうなっているのだし
ょうか。

嬉しいことが二つあります。一

つは、先輩の方から、春になった
ら、とある障害者の方を海外旅行
に連れて行ってもらえないかとい
うお話をいただいています。無報
酬ですが、嬉しいです。私も、人
に信頼される地域の社会資源にな
ってきたのかなと思います。これ
がうまくいって、これからの地域
貢献活動の一つになればいいなと
も思います。

もう一つは、社会福祉士事務所
の事業ベースのお話です。ある民
間団体グループが成年後見を法人
受任する公益団体を作って社会貢
献活動をしようという動きがあり、
お誘いを受けて、私も弁護士・司
法書士など専門職アドバイザーの
一員として参加しています。具体
的な形になるのかどうか、三月頃
には進展があるでしょう。

これまでの歩みを振り返ってみ
ると、少しずつですが私なりに地
域の福祉に貢献できる道筋が広が
ってきているんだな、と思います。
やはり、先輩方をはじめ地域の
様々な人たちとの繋がりのお蔭で
す。独立型、勤務型を問わず、社



服部さんからの一押し
『ソーシャルワーカー最前線 現場主義』
私が独立型社会福祉士のアイデンティティを考える時、いつも刺激されています。最新刊第5号では、「地域で開業する社会福祉士たち」を特集しています。詳しくは、編集部「宮秋社会福祉士電話042(477)1292まで」

会福祉士の活動にとって、人や地域との繋がりは必須の栄養源です。これから社会福祉士として活動を始めようとしている方々に、未だ経験の乏しい私ですが、アドバイスなど喜んでさせていたいただきたいと思っています。きっと、新しい繋がりが生まれるでしょう。

実習先の社会福祉士はアウトロー
柏北部地域包括支援センター
いわま たいち
岩間 太一

私がまだ社会福祉士受験資格を取得する為ある特別養護老人ホームで実習を受けていた頃、指導役として付いて頂いたH氏が、私の人生の中で初めて出会った社会福祉士でした。

H氏は当時職を失った私に「ウチで介護職として働いてみる？」と声を掛けてくれ、私のことを介護の道へと導いてくれた方でもあります。

H氏は利用者が望むことであれば、また自分が「面白い」と思うことはできる限り実行に移す方でした。

帰宅願望が強く「家に連れて行ってくれないか？」と毎日訴える利用者を車で自宅に連れて行ったり、「焼き鳥屋で一杯やりたい」と望む利用者があることを介護職員から聞くと、本当にその利用者を

焼き鳥屋に連れて一緒に晩酌をしてきたりと、普通であればできないと躊躇してしまうようなことも、諦めずに叶えてあげたいと考える方でした。

ある日、寝たきりで長い間胃ろうの利用者が「食事がしたい」と涙ながらに話したことを聞いたH氏は、職員や施設長を説得し、家族に説明し、医師に飲み込みテストを依頼し、なんとか経口摂取に移行ができたか奔走しました。

結果トロミを付けた麦茶を1日数口だけ摂取することができるようになり、その利用者が初めてトロミ付きの麦茶を口にした時、「おいしい」と涙を流した姿を、私は今でも忘れることができません。

望みを捨てない、諦めないこと」「可能性があるならば全てやってみること」「その人の生きる力を信じること」、そんな社会福祉士として、人として大事なことをH氏から教えてもらった気がします。

そして今社会福祉士となった私は、時折あの涙を思い出しながら、「その人の可能性を諦めない」こ

とを胸に、日々業務にあたっています。ちなみに、胃ろうの利用者さんはその後新たな目標を話していました。

「次は寿司が食べたい！」



今号の特集はいかがだったでしょうか？

「まずは利用者主体」「専門的すぎない」「全体を見渡せる」「その人の持つ可能性を諦めない」などの周囲からの評価と期待を知らなければ、知るほど、「もっと自己を研鑽し、格好いい社会福祉士をめざそう。」という思いにさせられます。この特集記事を通じて、社会福祉士としての使命を確認し、目標とされる姿を考えるきっかけになればと思います。

TOPICS

いつか 現場で
会いましょう
教育機関との協働

千葉県社会福祉士会では、淑徳大学と協働で次の二つに取り組みました。

一、一年生対象正課外プログラム「ソーシャルワーカーってこんな仕事」入学間もない一年生に、ソーシャルワーカーの具体的な業務内容を紹介することで、自分の将来像や目標などを描きやすくするためのプログラム(全十五回)

二、四年生対象プログラム「卒業を控える四年生を対象に、福祉の現場に出て活躍できる即戦力となれるよう、最近の動向や支援の基本的視点、さらには福祉専門職の心構えなどを伝える授業(全三十回)」



「連携教育」への挑戦

淑徳大学
総合福祉学部社会福祉学科
戸塚 とつか 法子 のりこ

福祉実践の「醍醐味」を大学生に伝えることは至難の業である。福祉学科に入学した学生達は、国家資格取得に向けたカリキュラムをこなすなか、ともすると底の浅い問題認識の「癖」を身につけてしまいがちになる。

昨今、そんな専門職養成教育の「危うさ」に危機感を感じ、平成二五年度入学生より、千葉県社会福祉士会からの協力を仰ぎつつ、新たな授業展開への挑戦を開始した。

「相手と向き合うとは」「相手の迷いや揺らぎにつきあうとは」といった永遠の難題に実践者はどう挑んだのか、その生々しい肉声に浸ることで、学生の内に福祉実践の「醍醐味」が広がっていく。実践者の肉声を通して永遠の難題と「対峙」し、考え込むことで、学生は深い問題認識の一端を体験する。

「関係づくりは大切」と言うは易し、問題への自覚がなく援助も求め

てこない相手とコンタクトをとるしんどさを「ロールプレイ」によって体験した学生が、「相手と向き合う」意味を強くたぐり寄せる過程に何度も遭遇した。こうした体験は、学生に将来への「足場」をしつかりとつくらせていく。

社会福祉実践の「醍醐味」を「連携教育」を通して育んでいく挑戦は、まさに始まったばかりである。



なりたい自分を、見つけるために。

かみやま 神山 裕也

「スタープレイヤーがここで話をします」

一年生のカリキュラムの冒頭でこんな話をした。サッカー少年に憧れの選手を聞けば、おそらく本田や香川といった名前が出てくる。では、

学生に憧れのソーシャルワーカーは？と聞いたらどうだろう。名前を挙げられる学生は極めて少数だ。当然である。学生の近くに、スタープレイヤーがいない。

この状況の中「ソーシャルワーカーになりたい」と思い、それを卒業まで持続させることは容易なことではないと感じる。淑徳大学より話があった時に思ったのは、「スタープレイヤーの取り組みを見せたい」ということだった。自分が憧れる「なりたい自分」をみつけることで、単に資格を追いかける学習ではない、もっと広い「福祉」への学びが生まれるのではないか。さらに、結果として卒業後に福祉分野へ進んでくれれば、職能団体としての後進の育成に寄与できるのではないかと期待している。

このプログラムでは大学の先生方と協力しながら、まずは一年生対象の正課外プログラムとして、現場で活躍する会員の話から、学生自身がソーシャルワーカーに対する具体的なイメージを作ること、さらには「なりたい自分を見つける」ことを目指した。四年生のカリキュラムでは、より具体的な支援の実際や、



最近の動向などを演習も交えながら行うと同時に、目前に迫る国家試験へのモチベーション維持・向上を目指した内容の講義などを行った。ただし、会員は人に教えるプロではないことから、適宜授業内では先生方にフォローしていただき、その内容についての解説や、大学内の授業との関係性などを伝えていた。

具体的な結果はまだ先の話だが、四年生の最終日にはこう伝えた。「皆さんとは現場で、お会いしたい」。現実になる日を楽しみに、会員の皆さんの協力をいただきながら、次年度はよりブラッシュアップしたものを協働していきたい。受講生の中からスタープレーヤーが誕生すれば、その人はきつとこの講座で話をしてくれるはずだ。今からとても楽しみで仕方がない。

社会福祉士のわ

千葉市あんしんケアセンター 菅田

鈴木 さやか

私は、大学を卒業と同時に社会福祉士の資格を取得しました。将来は社会福祉士の資格を活かして、相談業務を行いたいと思っていましたが、まずは現場を知ろうと思い、新設の特別養護老人ホームで介護職として就職しました。その時は、周りに社会福祉士会に入っている人もおらず、社会福祉士会に入って何のメリットがあるのだろうかと思っていたので、社会福祉士会には入会していませんでした。その後、転職を繰り返しもともと高齢者の介護予防に興味があったので、地域包括支援センターに入職しました。現在の職場に就職した際、職場の先輩に社会福祉士会に入るように勧められ、四年前に入会しました。

◇社会福祉士会に入会◇

その先輩の勧めで、研修委員会にも所属することになりました。

特養のご利用者さんとのコミュニケーションは欠かせないものですが、地域で暮らしている方々の相談を受けるたびに、自分の知識不足を感じていました。そんな時、基礎研修Ⅰが始まり、研修委員会で手伝いをしながら受けることにしました。(研修委員会に入っていないかったら、気後れして受けていなかったと思います…)

六年間、研修を積極的に受けることもしていなかったのですが、基礎研修Ⅰを受けることで、社会福祉士の勉強で習ったことを思い出し、相談を受けている今の自分はどうなのか？ただ単に話を聞いているだけだったのでは？など、振り返るきっかけとなりました。まだまだ技法など意識的に活用することはできていませんが、振り返るきっかけができたのは自分にとってプラスだったと感じます。また、次の基礎研修Ⅱでは、研修の日数も多く大変でしたが、グループワークが毎回のよう

にあつたため、様々な職場で活躍している方々と知り合うことができました。

日々、ご利用者さんの相談に乗っていると、介護保険制度だけではなく、障がい者福祉制度や、生活保護制度などを活用しないと解決しない問題も多く、介護保険制度以外の制度を理解していかなければならないと感じています。そのため、社会福祉士会に入り、様々な分野で活躍している方々と知り合えたことで、わからないことを相談できる環境であることは心強いと思っています。

まだまだ勉強不足を感じていますが、様々な分野で活躍している方々と知り合うたびに、頑張ろうという気持ちになります。



地域集会

つながるネットワーク

香取
海匝地区

報告者

旭市基幹相談支援センター

海匝ネットワーク

はなぶさ かずま
英 一馬

平成二六年十一月二五日にさわやかホール（中核地域生活支援センター海匝ネットワーク内）にて香取・海匝地区の地区集会を開催いたしました。今回は大屋滋氏（千葉県自閉症協会会長、総合病院国保旭中央病院脳神経外科部長、一般社団法人東総権利擁護ネットワーク理事長、NPO法人あおぞら理事長）をお招きし、「障害者虐待について」をテーマにご講演いただきました。以下に、その内容についてご報告いたします。

皆様、ご周知かと思いますが、平成二四年十月一日から障害者の虐待の防止、障害者の養護者に対する

支援等に関する法律（以下、障害者虐待防止法）が施行されております。

この法律では国や地方公共団体、障害者福祉施設従事者等、使用者などに障害者虐待の防止等のための責務を課すとともに、虐待を受けたと思われる障害者を発見した者に対する通報義務を課すとされております。ご講演では、障害者虐待防止法施行後の県内の障害者虐待通報等の受付および対応状況や虐待の種別、被虐待者の障害種別等についてお話しいただき、平成二五年に県内施設で起きた障害者虐待事件について先生のお考えを伺いました。この事件は、発生から約一年が経過しましたが、それがなぜ発生してしまったのかを改めて考える機会となりました。

法的には障害者虐待防止法も施行されており、虐待を見つけた場合には通報義務が課せられております。事件のあった施設でも、もちろん通常通りに行政機関による監査や第三者評価も受けており、問題は見つかっていなかったそうです。施設

設内では、職員の虐待防止研修への参加や虐待防止委員会の設置、ヒヤリハットをはじめとした事故報告、支援記録等の整備も問題なくされていたとのことでした。しかし、虐待を防ぐための法律や仕組みが完全に整備されていたにもかかわらず、事件は発生してしまいました。法律や仕組みがまったたく機能しなかったこと、しかもそれらの虐待が長期間にわたり常態化していたことを知り、愕然とされていた参加者もいらつしやいました。

ご講演を伺い、虐待を防止するための制度には限界があるということとを、私たちは知っておく必要があると感じました。私の所属する海匝ネットワークでは、旭市より障害者虐待防止センターも受託しております。虐待についての相談も、各関係機関と連携し対応しております。しかし、現在、私たちが対応しているケース以外にも、声をあげることのできない被害者がもつといるのではないかと危機感を感じました。

私たち一人ひとりが個々の立場で権利擁護の視点をもち、隣で起きていることに無関心にならず、常にアテナを広げておくことが重要だと思います。法律や仕組みだけに頼らず、それらと私たち個々の目や力が両輪となり、初めて障害者虐待に向けて取り組んでいけるのだと思います。また、そのような虐待防止に向けて取り組んでいける地域の土壌を作っていくことも、社会福祉士に課せられた使命だと感じました。

香取・海匝地区では、各分野の方々が集い、同じ社会福祉士として職場、職種にとらわれず気楽に学んでいける「場」として地区集会を開催しております。社会福祉士会の非会員、これから資格取得を目指している方、有資格者でなくとも参加は可能です。今後もお互いに切磋琢磨しながら刺激の多い地区集会になればと思っておりますので、皆様にも是非ご参加いただければと思います。

私のイチ推し

点訳サークル『わかば』

突然ですが、点と線をご覧になっている皆さんは、この広報誌が点訳されていることをご存知ですか？

点と線は、平成九年に発行された第二十号から現在まで、点訳サークルわかばさんのご協力を得て、点訳を必要とする会員の元へと届けられています。

今回の私のイチオシでは、船橋市を拠点にボランティア活動をされている点訳サークル『わかば』さんの活動を追ってみました。

船橋市主催の「点字講習会」第一回受講者の有志で、平成二年四月に立ち上げられた点訳サークル『わかば』は、点字を学びながら、点訳活動を通じて視覚障害者を支援することを目的としています。サークル活動の内容は、点訳活動、点字講習会の添削、選挙開票の判読、小中学校での点字講習会、初心者のための点字個別指導、点訳の勉強会や情報交換などを行っています。また、サー

クルとしての活動以外も、会員個人に点訳の依頼が入ることもあるそうです。

今回、点訳サークル『わかば』の皆さんにお話を伺い、一言一句、正確に点訳をすることには大変な労力を要するということが分かりました。しかし、「点訳は根気、集中力です」と朗らかに微笑みながらお話しくださるわかばの皆さんの、点訳を必要としている方のため、わかばさんだからこそ点訳を頼みたいという依頼者のためにと、純粋なボランティア精神のもとに集い、手を取り合い活動なさるお姿に感銘を受けました。わかばさんに点と線を点訳していただけていることに感謝です。これからも宜しくお願いいたします！

(広報部会 大橋)



主な活動内容

① 回覧シリーズ

月二回、新聞記事などを点訳し、読者から読者へと郵送で回覧しています。コラムなどの定番となっているものに加え、生活に便利な情報、新語や聞き慣れない言葉などに関する記事など、毎回サークルの例会で内容を検討しています。年に二回は、料理メモも点訳しているそうです。

② 千葉県社会福祉士会の広報誌「点と線」の点訳

年三回、点訳を実施しています。点と線は概ね十二頁程ですが、これを点訳すると六十頁になるそうです。五名のサークル会員の皆様が協力してくださっています。

③ 「ナショナルジオグラフィック」の点訳

千葉点字図書館の依頼で、千葉県内の五グループが輪番制で担当しています。昨年は三回担当しました。ナショナルジオグラフィックは写真や表、グラフが多用されています。そういった内容も、可能な限りわかりやすく文書化して点訳しています。

点訳サークル『わかば』さんは、一緒に活動してくれる会員を募集しています。活動の詳細は…

例会…原則として毎月第2・第4水曜日 (10:00~12:00)

場所…船橋市社会福祉会館 (船橋市身体障害者福祉センター)

点訳ボランティアに興味をお持ちの方や回覧シリーズを読みたい方、点訳をお願いしたい方がいらっしゃいましたら、こちらまで。

点訳サークル『わかば』 代表：千田 (せんだ) 和江

047-424-3630



千葉県SW三団体 連絡協議会

「地域で生きる」を支援するに参加して

我孫子市役所障害福祉支援課

おにわ
男庭 英恵

今年の四月から施行される『生活困窮者自立支援法』は、具体的にどのような制度なのか、計画を作ると聞いたけど、どのような計画を作るのが知りたくて参加しました。

研修の冒頭、講師の山崎さんからソーシャルワーカーの心得についてのお話がありました。よくドラマで見る「飛行機の中で急病人が発生した時」になぞらえて、緊急性の高い相談者を前にした時、自分の専門ではないから次に相談する先を本人に教える、というところで止まってしまうのではなく、次につながるまでの間、自分のあらゆる知識と技術を動員して緊急対応を取るべき、と伺いました。分かっていたつもり

でしたが、改めて気持ちを入れ替えることができました。

研修の前半は、『生活困窮者自立支援法』について、資料を見ながら全体像と法律の概要や事業内容の説明がありました。私が知りたかった計画は、必須事業の自立相談支援事業において、自立に向けた支援の計画を作成することだということが分かりました。

後半は、実際の生活相談場面を再現したような事例が提示され、初めに与えられた情報から、どのように支援をしていくのかをグループで検討していきました。事実が徐々に分かっていく過程は、まさに今の前に相談者がいるような緊迫感を味わいながらのグループワークになりました。目の前の相談者の話から、短時間で必要な情報を得るには、どのような質問をすれば必要な情報が手にはいるのか、その時に何を基準に支援方法を決めていくのか、また、どう支援をすればいいのかを具体的に話し合う中で、その方に合った支援をする為には、日々の

相談業務にも共通する、正確なアセスメントの必要性を再確認出来ました。

今回の研修で、『生活困窮者自立支援法』や、正確なアセスメントの必要性を再確認できましたが、一番心に残ったことは、講師の市川社協の山崎さん、鈴木さん、三浦さんと千葉県社会福祉士会の染野会長の熱い熱い心です。相談業務の原点は、まず心ありきだなと、しみじみ感じることが出来ました。研修に参加させていただきありがとうございます。

Brainstorming

- (T) 「わたしの仕事をどう伝える？ 原稿募集したけど来なかったね」
- (Y) 「このポテチうまいよ」
- (S) 「特集どうしようか」
- (I) 「ちょっと自販機いってきます」
- (O) 「最近ちょっと専門性の高い内容を目指していたけど、読むのが大変って声もあったよね」
- (S) 「新年度に読む社会福祉士もいるから、読んでてうれしくなるような特集にしたいよね」
- (O) 「こっちのポテチの方がうまいよ」
- (N) 「社会福祉士が社会福祉士を語る」とはあったけど、他分野の人から語ってもらって少なかったよね」
- (T) 「うちのカッコいいとこ話してもらおう！」
- (O) 「あの人書いてくれるかな」
- (I) 「ただいま、あれ、決まったの」
- (S) 「今回の特集依頼するのもワクワクするね」

ということ、今回の特集記事を組みました。点と線の編集会議部員でワイワイガヤガヤ楽しくやっています。部員募集中です。

事務局便り

陽の光には春らしさを感じられます。皆様、いかがお過ごしでしょうか。さて、皆様のご協力のもと、平成26年度第1回臨時総会を開催することができました。ご出席いただいた皆様、ご協力ありがとうございました。4月には新年度の年会費の引落としがございます。勤務先やご住所の変更など、会員情報に変更が生じた場合には、下記「会員の皆様へお願い」欄を参照いただき、お手続きくださいませ。

研修等・行事のお知らせ

- 平成27年3月7日（土）平成26年度第1回臨時総会（開催済み）
- 平成27年6月13日（土）平成27年度第3回通常総会

※研修等が新たに決定した際にはホームページに随時掲載致します。是非チェックしてください。
千葉県社会福祉士会ホームページ：<http://www.cswchiba.com/>

会員の皆様へお願い

お名前・ご住所・電話 FAX 番号・お勤め先等が変更となった場合、変更届の提出が必要です。入会時と変更がある場合は、お早めに手続きをお願いいたします。

※変更届は日本社会福祉士会ホームページの会員専用ページ「事務諸手続きについてのご案内」からダウンロードが可能です。

当会は会員管理を日本社会福祉会へ委託しております。よって下記へご連絡頂いた変更内容は月末にとりまとめ、日本社会福祉士会から千葉県社会福祉士会へ届きます（タイムラグが生じます）。尚、ばあとなあ登録員の方は「名簿登録内容変更申請書」と別に変更届が必要となります。

【提出先：公益社団法人 日本社会福祉士会 事務局】

〒160-0004 東京都新宿区四谷 1-13 カタオカビル2階 TEL03-3355-6541/FAX 03-3355-6543

はじめまして！

**** 新事務局員のご紹介 ****

今年2月より事務局に入りました 原 と申します。福祉の現場で15年ほど働いておりました。事務員としてはまだまだ覚えることがたくさんございますので、早く一人前になって、皆様の活動を支えていけるように頑張ります。皆様と一緒に地元千葉県の福祉を盛り上げていきたいと思っています！どうぞよろしくお願い致します。

ようこそ！千葉県社会福祉士会へ

氏名	居住地	勤務先	氏名	居住地	勤務先
喜多見香織			柳村典子	柏市	木下の介護 南柏
角田真由子			碓田聡子		
武藤州範	佐倉市		月田いづみ	船橋市	
長嶋美智代	千葉市	ディアフレンズ美浜	山下はるひ	柏市	
前川武史	船橋市	まうまうケアソリューション			

※正会員登録書「点と線掲載の可否」の項目で、可に○を頂いている方のみ掲載しております。（順不同・敬称省略）

平成26年12月末現在の会員数

正会員 1,356名、準会員 6名、賛助会員 2名 合計 1,364名